



大規模災害が近い将来には発生する確率が高いと予想されています。発生した場合には混乱状態になることは必至です。今月は安心できる避難所生活を送るため、の配慮事項として参考にして頂ければ幸いです。

大規模災害から命と暮らしを守るための知識 “避難所運営の手引き”

避難生活における問題（イラスト）

1. 地域の少数の

男性役員が責任を
一手に引き受け、
疲労困ぱいしている。

2. 妊娠初期の女性、
育児、炊き出し、
食材の運搬など
におわれ、疲労
困ぱいしている。

3. 高齢者・慢性疾患の
人・障害者などが健康
を損ねたり、つらい
状況に置かれても、
相談できない。



避難所運営のポイント

1. 多様な人々が一緒に過ごせる場所づくり

避難生活での要望	要望が言い出せず、健康リスクが高まり、命を落とすことにもなりかねません。 (特に、高齢者・障害者・子供・病気の人・女性 など)
負担の偏りの解消	一部の男性だけの役員たちに責任が集中する形では過労傾向となる上、衛生・栄養・介護・育児などの知識・経験が避難所運営に活かされず、全体にも影響がでます。
平等な役割分担	誰でもできることは性別や年齢に関係なく担ってもらい（例：炊き出し）、女性リーダーを登用したり、障害者や介護経験者にも運営に参画をしてもらいましょう。

裏面につづく

回 覧								

防災ニュース「きらら」は単独で回覧をお願いします。

2. 暴力防止・安全の確保（性暴力も含む）

- ・生活環境の激変によるDVやセクハラ、ストーカー、性暴力、虐待を防ぐことが大切です。
- ・災害直後の段階から、照明をしっかりと確保できるようにしましょう。
- ・昼夜問わず、大勢の人がいる場所でも暴力・性暴力は起こり得ます。暴力・性暴力を許さない環境づくりが大切です。
- ・防犯担当も男女両方が担い、被害を受けやすい女性と子供が相談しやすい安全な環境改善に努めましょう。
- ・犯罪行為は許されないこと、何か問題に気づいたらすぐに通報できるように、見回りの強化を積極的に行いましょう。

3. 心身の健康の維持

- ・過労による心身の疲れや辛さを和らげるよう、休息のための時間・空間を確保しましょう。
- ・責任や作業は一部の人で抱えこまずに、みんなで分担して行いましょう。
- ・災害関連死を防ぐために、見守りや声掛けをしましょう。
- ・身体機能維持とエコノミー症候群の防止のために、衛生・育児・介護及びトイレ環境の整備、水分補給の徹底とともに、軽い運動や散歩を行いましょう。

4. トイレ・衛生

トイレ	男女別に分け、設置数は男性トイレ：女性トイレ＝1：3の割合を目指しましょう。 介助が必要な人や性同一障害の人も使える多目的トイレも考えましょう。
衛生	災害直後から衛生対応として、トイレ（汚物処理・清掃）と感染症対策についても考えておく必要があります。

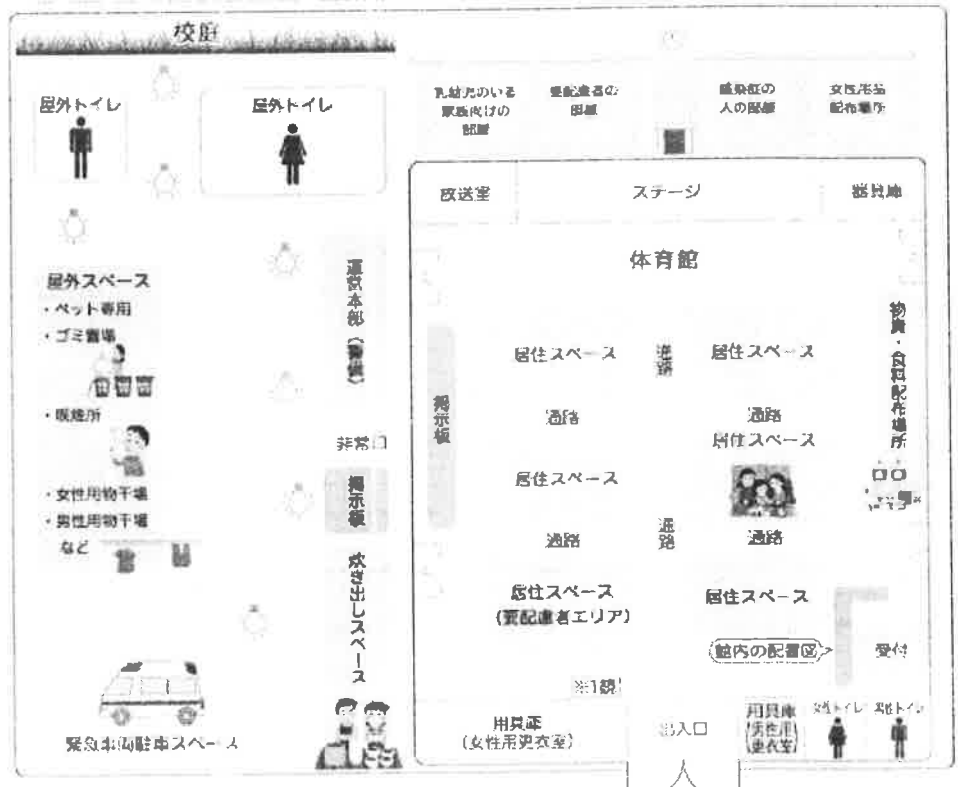
誰もが安全・安心な避難所とは？

必要と考えられる個別のスペース（案）

避難所となる学校施設の利用については、立ち入り禁止場所、更には、早期学校再開の目的により使用できない場所（校舎・教室）があります。

- ・男女別の更衣室
- ・休憩・相談室
- ・女性用品の配布場所
- ・単身女性や母子家庭向け
- ・介護・介助が必要な人向け（高齢者・障害者）
- ・感染症の人など看護向け
- ・授乳・おむつ替え向け
- ・子供向け（勉強・遊びなど）
- ・乳幼児のいる家族向け
※鏡などは余震で倒れて割れる可能性があるので設置箇所を考えましょう。
※補助犬などについても、考えておきましょう。

四日市市危機管理室 発行
「避難所運営の手引き」
より抜粋



- ※ 避難所は、居住スペースに限度がある事と環境の変化などによって体調を崩す人もいます。自宅の倒壊や火災などの危険性がない限り、自宅での「在宅非難」をしましょう。そのためにも食料品・日用品などの備えをしておきましょう。